

はじめに

京都大学防災研究所は、平成 8 年に設置目的を「災害の学理の研究および防災に関する総合的研究」と改めるとともに、研究体制を 5 大部門と 6 研究センターで構成される全国共同利用研究所への転換を含む抜本的改組を行いました。さらに、平成 10 年度及び平成 15 年度に実施した外部評価の指摘事項に対する改善策のひとつとして、平成 17 年に複数の研究部門と研究センターから構成される 4 つの「研究グループ」を創設し、所内の教育研究活動の更なる活性化と全国共同利用研究所としての機能の充実を目指してきました。

平成 20 年の科学技術・学術審議会学術分科会の学術研究推進体制に関する報告を受けて、大学附置研究所の役割が見直されたことから、今回の外部評価では、「共同利用・共同研究拠点」として機能する上での問題点、課題等に関する事項を、平成 17 年度以降の教育研究活動、運営体制と共同利用・共同研究の実績の評価とあわせて、意見・助言をいただくこととしました。特に、当研究所における共同利用・共同研究の特色のひとつである実験設備および隔地施設の今後のあり方等についてご意見を求めることとし、宇治キャンパス内の実験設備と宇治川オープンラボラトリーを視察いただきました。

外部委員からは、防災研究所の管理運営、研究活動、全国共同利用研究所としての役割・研究ネットワークの構築、実験設備・隔地施設のあり方および共同利用・共同研究拠点申請について、貴重なご助言とご意見をいただきました。防災分野での全国共同利用研究所としての活動およびフィールドに根ざした教育研究については高い評価を受けたものの、研究活動・研究業績に関しては厳しいご指摘も受けました。今回の外部評価を踏まえて、全国の、また世界の防災分野の「共同利用・共同研究拠点」としてふさわしい研究所を目指したいと考えています。

お忙しいなか膨大な資料をお読みいただき、また 2 日間にわたる外部評価委員会で熱心な質疑と建設的な助言・意見をいただいた外部評価委員の先生方に關心より御礼申し上げます。自己点検評価報告書等のとりまとめと、外部評価に係る準備と実施、外部評価の取りまとめにご尽力いただいた自己点検・評価委員会の戸田圭一委員長をはじめ委員の皆様に謝意を表します。

平成 21 年 6 月

石原 和弘
(防災研究所前所長)